

助産薬理学

単位数：1 単位

○直良 浩司：薬剤部 部長 教授
矢野 貴久：薬剤部 副部長 准教授
今岡 かおる：今岡皮膚科クリニック院長
麻酔科医：

1. 科目の教育方針

薬理学の基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）とともに、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について解説し、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解を深める。さらには母体救命救急に使用する薬剤取り扱い上での基礎的知識を修得する。

思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される和漢薬についての知識を深める。

2. 教育目標

- 1) 薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を学習する。
- 2) 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。
- 3) 産婦に頻用される薬剤について知識を深める。
- 4) 妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深める。
- 5) 母体救命救急に使用される薬剤についての基礎的知識を学習する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

主に対面講義で進め、Webex、Teamsによるライブ配信、オンデマンドを併用する。

【評価】

筆記試験により評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

適時、参考資料を提示する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	周産期における薬物体内動態： 薬物の胎児への影響、薬物の母乳移行、新生児への薬物の使用	直良
2	妊娠・授乳への薬物の影響1： 向精神薬、抗けいれん薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬	直良
3	妊娠・授乳への薬物の影響2： 循環器官用薬、呼吸器官用薬、消化器官用薬、 アルコール・喫煙	直良
4	妊婦・授乳婦の感染症治療： 細菌・真菌・原虫・ウイルス、ワクチン接種、ウイルスキャリア妊婦	矢野
5	医薬品情報の収集、評価、活用法： 添付文書の読み方、インターネットによる情報検索、 妊娠と薬相談	矢野
6	ウイメンズヘルスと漢方（1）	今岡
7	ウイメンズヘルスと漢方（2）	今岡
8	帝王切開、麻酔・無痛分娩に使用される薬剤	麻酔科医